

史料紹介

別府市城の旧豊前街道を歩む

『豊後紀行』貝原益軒

(元禄七年一六九四年) より

研修部

るもの多し。しるし有と云。

◇ 別府は石垣村の南に有。町にて民家五百軒斗、民家の宅中に温泉十所有。何もきよし。庄やの宅中にあるは、ことにいさぎよし。凡そ此地の温泉は他邦に増りて、きよく和なり。家々に多きゆへ、其館に宿れる客の外に、浴する者なし。故に浴数も時刻も、客の心に任せて自由なり。(中略)

◇ 頭成より里屋まで一里有。此の間坂道多し。石多くして「往來の便」わるし。里屋に温泉有。鹽湯なり。里屋村を

◇ 別府村の南濱脇と別府の間に小川有。浅見川と云。立石

又亀川村とも云。平田村は里屋の南に有。(中略) 實相寺

村の下に浅見村ある故なり。源は立石より出ず。(中略)

山、里屋の東に有。昔はこの山に實相寺と云寺あり、今はなし東の麓に實相寺村有。此山は慶長五年九月十三日、黒田如水の太友を打んとて、宿陣し給ふ所なり。

◇ 北石垣、中石垣、南石垣とて、實相寺村の東に三村有。

◇ 十三日、別府より船に乗りて、府内に行。(中略) 高崎山の麓を行。高崎山は別府の東南の海辺に有。山上に太友の城跡有。陸地を行齒、高崎の西の方、赤松嶺をこす。難所なり。其南の下に赤松村あり。此道は遠し。歩行にて行は、山の東の海邊なるかけ道を行よし。道細くして危しと云。此山は里人は四極山と云。

道の東の方に有。此所を石垣と称せしは、元より石多き所なれば、農一畠を作らんに、石を拾ひ聚めて積上しかば、自ら石垣と成し故なり。

◇ 北石垣と中石垣との間、道の傍、西方に松などおひ、林の少し茂る所に吉弘嘉兵衛統幸が古墳有。上に石に切れる小厨を置り。勇猛の士の墓なればとて、里民瘧疾などを祈